

引用の方法・ 参考文献の書き方

- 1 引用の意義
- 2 引用の方法
 - 2-1 基本的なルール
 - 2-2 著者名方式と引用順方式
 - 2-3 略号
- 3 参考文献リストの意義
 - 3-1 参考文献の目的
 - 3-2 書誌情報を確認する方法
- 4 参考文献リストの書式
 - 4-1 SIST
 - 4-2 APA スタイル
 - 4-3 シカゴスタイル
 - 4-4 MLA スタイル
 - 4-5 ブルーブック
- 5 文献管理ツール



1 引用意義

学術研究は、先行する知見の蓄積を前提として、それらを踏まえた上で新たな知見を提示する営みです。新たな知見を誰よりも先に提示した人には、その知見に関する先行者としての優先権が認められます（このことは、その知見が特許などと結びつく場合により顕著になりますが、学術研究において一般的に当てはまります）。このことから、先行する知見の蓄積があるテーマを研究する際には必ずそうした知見に言及しなければならず、その言及は、自らが提示する知見とは区別される形でなされなければならないという学術研究上の倫理規範が導かれます。このことを前提として、学術研究における引用には大別して3つの役割があるといえます。

- ① 自らが提示する知見の新規性を主張し、その主張の正当性を裏付けること
- ② 新規性の主張やその主張の正当性を第三者が検証できるようにすること
- ③ 先行する知見を提示した人々の優先権を尊重すること

学術研究における引用の重要性を示す一つの例は、適切な方法による引用を怠ることが研究不正とみなされることです。学術論文において、先行する知見を参照しているにもかかわらずその旨を明示しないことは、剽窃（plagiarism）とみなされ、重大な研究不正行為とされます。剽窃が認定された場合、その論文は撤回されることとなり、学位論文である場合には学位も取り消されます。

引用の重要性を示すいま一つの例は、どれだけ多く引用されたかということがその論文の重要度の指標とされていることです。このことは、より重要な論文ほどより多く引用されるという経験則に基づいており、「Scopus」や「Web of Science」（いずれも【[阪大契約あり](#)】）などの引用索引データベースを用いて、個別論文の被引用回数を検索することができます。また、個別の論文の被引用回数だけでなく、研究者の業績を評価する指標の一つである「h-index」や、学術雑誌の影響力を示す指標の一つである「インパクトファクター」なども、論文の被引用回数を変数として組み込んでいます。

■林紘一郎、名和小太郎『引用する極意 引用される極意』（勁草書房、2009）【[阪大所蔵あり](#)】

2 引用の方法

2-1 基本的なルール

引用の基本的なルールは、著作権法第32条・第48条および判例法理によって、以下の原則からなるとされています。

*日本学術振興会「[科学の健全な発展のために：誠実な科学者の心得 \[第2版\]](#)」（2025年）94ページ以下も参照してください。

① 公表された著作物を引用していること

・引用の対象となる著作物は、一般に開示されているものである必要があります（第三者による検証可能性を確保するため）。

② 公正な慣行に合致すること

・その分野において公正とされる慣行（このガイドの「2-2」および「4」で概説している引用・参考文献の書式など）に従って引用する必要があります。

③ 目的に照らして正当な範囲内であること

・引用の分量や範囲は、引用する目的に照らして適正なものである必要があります。

④ 引用部分が他の部分から明瞭に区別されていること

・引用部分が分かるように、鍵括弧や段落下げなどによって引用部分を明示する必要があります。

⑤ 引用部分が引用者の著作に従属していること

・文章の量や引用の目的などに照らして、引用者の著作部分が主、引用部分が従である必要があります。

⑥ 出典を明示していること

・公正な慣行に合致する方法によって、引用の出所を明示する必要があります。

なお、ある著作物が引用している文章を、その著作物からそのまま再度引用すること（いわゆる「孫引き」）は、原則として避けた方がよいとされます。引用者は、引用部分の文言の正確性に責任を持つことはもちろん、もともとの文脈上の含意をふまえて引用部分を自らの論旨に組み込む必要があります。引用する際は、できるだけ原典にあたって引用するようにしましょう。

〈引用と著作権法について知るためのガイドブック〉

■島並良、上野達弘、横山久芳『著作権法入門』（有斐閣、2024）【[阪大所蔵あり](#)】

■三山裕三『著作権法詳説』（勁草書房、2023）【[阪大所蔵あり](#)】

■雪丸真吾、福市航介、宮澤真志編『ウェブサイトの著作権 Q&A』（中央経済社、2022）【[阪大所蔵あり](#)】

■上野達弘編『教育現場と研究者のための著作権ガイド』（有斐閣、2021）【[阪大所蔵あり](#)】

■北村行夫、雪丸真吾編『Q&A 引用・転載の実務と著作権法』（中央経済社、2016）【[阪大所蔵あり](#)】

2-2 著者名方式と引用順方式

引用する際には、引用部分を鍵括弧で囲むなどして、自分が書いた文と引用部分を明確に区別するとともに、引用部分の出典を明示する必要があります。引用部分の出典を示す方法としては、大別して、著者名方式と引用順方式があります。

2-2-1 著者名方式

引用部分の直後に丸括弧を置いて著者名・出版年・引用ページを記入し、引用文献の書誌情報一覧（参考文献リスト）を論文の末尾に著者名順に記載する方式です。ハーバード方式とも呼ばれます。

【例】

（本文）○山□子は、「〜〜〜」と述べている（○山 20XX、p.●●）。

（参考文献リスト）○山□子（20XX）『———』▲▲社

2-2-2 引用順方式

引用部分に番号を付し、引用文献の書誌情報を脚注等に番号順に記載する方式です。バンクーバー方式とも呼ばれます。

【例】

(本文) ○山□子は、「~~~~」と述べている^[1]。

(脚注) ^[1] ○山□子 (20XX) 『————』 ▲▲社、p.●●

2-3 略号

同一の著作物から繰り返し引用する場合や、一定の範囲を要約して引用する場合などには、引用部分の出典を明示するにあたって略号が用いられる場合があります。ここでは、代表的な略号をご紹介します。

〈繰り返し引用する場合〉

ibid. (=ibidem の略)

- ・直前に引用した著作物と同一の著作物から再度引用する際に、著者名等に代えて用います。

【例】

(本文) ○山□子は、「~~~~」と述べている (○山 20XX、p.●●)。しかし、○山は、「====」とも述べている (ibid.、p.■●)。

op. cit. (=opere citato の略) / **loc. cit.** (=loco citato の略)

- ・op. cit.は「前掲書」、loc. cit.は「前掲書の前掲箇所」を指します。

〈要約的に引用する場合〉

ff. (=and the following の略)

- ・示したページに続く複数のページを指します。

【例】 p.100ff. (100 ページと、それに続く複数ページ)

passim (=「随所に」の意)

- ・引用する部分の論旨がその著作物の随所に登場することを示します。

【例】 p.20, passim (20 ページの随所に) ; pp.20-21, et passim (20-21 ページと、その他随所に)

〈その他〉

cf. (=confer の略)

- ・参照すべき文献を指示する際に用います。

*その他の略号については、以下の文献を参照してください。

■齊藤孝、西岡達裕『学術論文の技法 [新訂版]』(日本エディタースクール出版部、2005) **【阪大所蔵あり】**

- ・135 ページ以下に欧文略語に関する解説があります。

3 参考文献の意義

3-1 参考文献の目的

参考文献は、引用文献・参照文献の総称であり、学術論文にはすべての参考文献の書誌情報を必ず記載しなければなりません（参照はされたが引用はされなかった文献を、ここでは「参照文献」と呼んでいます）。参考文献は、その論文の論旨を構成するために引用・参照された文献ですから、その書誌情報を記載しておくことによって、読者はそれらの文献をあらためて確認し、論旨の妥当性を検討することができるようになります。

3-2 書誌情報を確認する方法

参考文献を記載する際には、文献の書誌情報を確認する必要があります。文献の書誌情報の確認方法について、図書と論文に分けて概説します。

3-2-1 図書

図書の参考文献の書誌情報としては、著者名、書名（タイトル）、版次、出版者、出版年が必要です（出版者の所在地が必要な場合もあります）。図書の書誌情報は、手元に現物がある場合には図書の奥付（おくづけ）、手元に現物がない場合には目録（OPAC）で確認することができます。

〈奥付〉

奥付は、図書の末尾に書誌情報をまとめて記載したものです（洋書の場合は、末尾ではなく表紙付近に奥付に対応するページがあることが多い）。売れ行きが良い本や改版された本の場合、出版年の欄には複数の年が記載されていますが、参考文献を記載する際には、もっとも新しい版の第1刷が発行された年を出版年とします（増刷では内容に変更がありませんが、改版では内容に変更があるため）。

〈目録（OPAC）〉

目録は、図書館等が所蔵する資料を検索することができるように、書誌情報と所在情報を結び付けて記録したものです。書名、著者名、出版年、発行者、定価などが記載されています。

3-2-2 論文

論文の参考文献の書誌情報としては、著者名、論文の題名（タイトル）、掲載雑誌の誌名、出版年、巻号、掲載ページ数が必要です。論文には図書のような奥付はありませんので、論文の現物に記載されている情報やデータベースに登録された書誌情報をもとにして、必要な情報を確認してください。

4 参考文献の書式

参考文献の書誌情報の記載方法は分野やジャーナルによって異なりますが、いくつかの代表的な書式が策定されています。ここでは、代表的な書式について概説します。

4-1 SIST(科学技術情報流通技術基準)

学術情報流通の円滑化を図るため、科学技術振興機構によって策定された、学術文献における書誌事項

の記載方法等に関するガイドラインです。参考文献の書き方は、2007年に制定された「[SIST 02](#)」改訂版に定められています。SIST事業は2011年度で終了しており、現在は[国立国会図書館インターネット資料収集保存事業（WARP）](#)で当時のWebページやSISTの各種様式を閲覧することができます。

【例】

(和文論文) ○山○子. 論文タイトル. 雑誌名. 20XX, vol.XX, no.YY, p.●●-●●.

(欧文論文) Sato, Ichiro. 論文タイトル. 雑誌名. 20XX, vol.XX, no.YY, p.●●-●●.

(和文図書) ○山○子. タイトル: 副題. 第X版, ▲▲社, 20XX, ▼▼p. ※末尾は総ページ数

(欧文図書) Sato, I. タイトル. ▲▲社, 20XX, ▼▼p. ※末尾は総ページ数

4-2 APAスタイル

米国心理学会 (the American Psychological Association) が策定した書式です。心理学をはじめとして、社会科学分野で広く用いられています。

■『Publication Manual of the American Psychological Association, 7th ed.』(The American Psychological Association, 2020) [【阪大所蔵あり】](#)

■『APA 論文作成マニュアル 第3版』(医学書院, 2023) [【阪大所蔵あり】](#) ※第7版の邦訳

【例】

(論文) Sato, I. (20XX). 論文タイトル. 雑誌名, XX(YY), ●●-●●.

(図書) Sato, I. (20XX). タイトル. ▲▲社.

4-3 シカゴスタイル

シカゴ大学出版局から刊行されている *The Chicago Manual of Style* に依拠した書式です。このマニュアルを学生向けにまとめ直したものとして、Turabian による解説書があります。

■『The Chicago Manual of Style, 18th ed.』(University of Chicago Press, 2024) [【阪大所蔵あり】](#)

■Kate L. Turabian『A Manual for Writers of Research Papers, Theses, and Dissertations, 9th ed.』(University of Chicago Press, 2020) [【阪大所蔵あり】](#)

■ケイト・L・トゥラビアン編『シカゴ・スタイル研究論文執筆マニュアル』(慶應義塾大学出版会, 2012) [【阪大所蔵あり】](#) ※Turabian による解説書の第7版 (2007年) の邦訳

【例】

(論文) Sato, Ichiro. “論文タイトル.” 雑誌名 XX, no.YY (20XX): ●●-●●.

(図書) Sato, Ichiro. タイトル. 出版地: ▲▲社, 20XX.

4-4 MLAスタイル

現代言語学会 (the Modern Language Association) が策定した書式です。言語学や文学をはじめとして、人文学分野で広く用いられています。

- 『MLA Handbook, 9th ed.』(Modern Language Association、2021)【阪大所蔵あり】
- Mark Hatala『MLA Made Easy』(Greentop Academic Press、2021)【阪大所蔵あり】
- 『MLA ハンドブック』(秀和システム、2017)【阪大所蔵あり】※第8版の邦訳

【例】

(論文) Sato, Ichiro. “論文タイトル.” *雑誌名*, DD MM 20XX, pp.●●-●●.

(図書) Sato, Ichiro. タイトル. ▲▲社, 20XX.

*欧文の代表的な書式である APA スタイル、シカゴスタイル、MLA スタイルは、以下の Web サイトで資料の種類ごとの書式のひな形を確認することができます。

■Purdue OWL (Purdue University、<https://owl.purdue.edu/owl/index.html>)

・アカデミックライティングに関する情報がまとめられています。「Research and Citation」のページで各種書式のひな形を確認することができます。

■Citation Style Guides

(University of Washington、<https://guides.lib.uw.edu/research/citations/citation-styles>)

・著者名方式と引用順方式の代表的な書式に関する解説がまとめられています。

■Citation Machine (Chegg Inc.、<https://www.citationmachine.net/>)

・書式を選択して文献のタイトル等を入力すると、自動で参考文献リストを作成することができます。

4-5 ブルーブック

法律学分野（とくにアメリカ）で広く用いられている引用書式です。日本では、ブルーブックを模範として、法律編集者懇話会・特定非営利活動法人法教育支援センターによって「法律文献等の出典の表示方法」が策定されています。

■『The Bluenook, 21st ed.』(Harvard Law Review Association、2020)【阪大所蔵あり】

■Bluebook Legal Citation System Guide: Getting Started

(Harvard Law School Library、<https://guides.library.harvard.edu/law/bluebook>)

■近江幸治『学術論文の作法 [第3版]』(成文堂、2022)【阪大所蔵あり】

・学術論文一般を念頭において書かれていますが、著者は法学者であるため、ブルーブックを含む法学分野に特有の事項も言及されています。

5 文献管理ツール

文献管理ツールは、収集した文献を整理して管理するうえで有用なアプリケーションです。一般的に、文献管理ツールには、①文献情報の取得、②文献情報の管理、③文献情報の出力という3つの機能が備わっています。とりわけ③は、投稿先のジャーナルが指定する書式に合わせて文中での引用や参考文献リス

トの作成をすることができる機能であり、論文執筆・投稿の効率化に役立ちます。

■Mendeley (Elsevier 社)【[阪大契約あり](#)】

- ・無料で利用することができる文献管理ツールです。大阪大学では、無料版よりも保存容量が大きい機関版を契約しているため、阪大生のみなさんは機関版も無料で利用することができます。
- ・詳しくは、附属図書館 Web サイトの「[文献管理ツール](#)」のページをご覧ください。

■EndNote Online (Clarivate 社)【[阪大契約あり](#)】

- ・無料で利用することができる文献管理ツールです（デスクトップアプリ版の「EndNote」は有料）。大阪大学では、無料版よりも引用スタイルの数が多い機関版を契約しているため、阪大生のみなさんは機関版を無料で利用することができます。
- ・詳しくは、附属図書館 Web サイトの「[文献管理ツール](#)」のページをご覧ください。

*その他の文献管理ツール（Paperpile、Papers、Zotero）については、附属図書館 Web サイトの「[文献管理ツール](#)」のページをご覧ください。

附属図書館は、阪大生のみなさんの学習・研究をサポートします！

附属図書館では、各館の参考調査カウンターを中心に、阪大生のみなさんの学習・研究をサポートしています。学習・研究に必要な文献調査や情報提供をはじめとしたご相談に応じていますので、ぜひお気軽にご利用ください。詳しくは、附属図書館 Web サイトの「[レファレンス・デスク](#)」のページを参照してください。

また、附属図書館 4 館のうち 3 館（総合図書館、理工学図書館、外国学図書館）では、ラーニング・サポートデスクを設置しています。ラーニング・サポートデスクでは、大阪大学の大学院生がラーニング・サポーター（LS）としてみなさんの学習・研究に関するご相談に応じます（対面相談・オンライン相談のほか、フォームからの相談も受け付けています）。LS の専攻や在席時間については、附属図書館 Web サイトの「[ラーニング・サポートデスク](#)」のページを参照してください。

「引用の仕方・参考文献の書き方」に関連する、LS 作成パスファインダー

タイトル	作成年度	作成者所属（当時）
ジャンル別日本語での作文技術	2024	人文学研究科
研究計画書の書き方（改訂版）	2024	人文学研究科
参考文献の書き方	2021	言語文化研究科
参考文献的正确写法(中国語版「参考文献の書き方」)	2016	言語文化研究科
レポート・論文のための引用の技術	2013	言語文化研究科

附属図書館ラーニング・サポートデスクでは、LS の専門性をいかした「テーマ別調べ方ガイド」（パスファインダー）を作成しています。附属図書館 Web サイトの「[パスファインダー](#)」のページで、これまでに作成したパスファインダーをご覧ください。